

地球温暖化問題

栃木県の特徴

1. 冬季の日照時間は全国で第3位である。
2. 一人当たりの県民所得は全国第8位である。
3. 運輸部門によるCO₂排出量が全国比で高い。
4. 県内面積の55%が森林である。
5. 県内で使用する電気の78.4%は原子力発電による。

栃木県が環境先進県として低炭素社会を目指すため、行政と経済界の取り組みが相乗効果を生み出し、県民運動につなげていく為の5つの提言

提言

「環境タウン」の建設推進
環境に配慮した住宅や家庭用機器を取り入れ、環境配慮型の新しい日本のモデルとなるような街づくりを行う。

「日光杉」ブランドの活用
県内55%の森林資源を地域資源として活かすため、県内の杉を「日光杉」と名付け（ブランド化）活用する。

「栃木県版森の町内会」運動の推薦
間伐促進のための費用を企業が支援する仕組みを構築する。

「環境学習」を生涯教育に
一人ひとりの意識改革が重要であることから、経済界が学校教育や社会人教育について積極的な支援を行う

「EVタクシー」による社会実験の実施
CO₂を排出しない新しい公共交通の仕組み。

期待される効果

「環境タウン」における環境配慮型の先進的な取り組みが県民全体へと広がり、県外に様々な情報発信を行う。

「日光杉」ブランド化による林業活性化とCO₂吸収源としての森林が活用できる。

県内の森林の間伐と間伐材の利用促進と企業の環境意識向上が図られ、健全な森林が育っている。

今迄とは違った環境教育を企業が学校等に対して支援を行い、企業および県民の環境意識のレベルアップが図られる。

日本で最初の大規模なEVタクシーの実証実験を行い、効果を測り運輸業界のCO₂の大幅な削減が期待できる。

未来像

環境意識の高い栃木県民によって、低炭素社会の実現に向けての取り組みが、日々実施され、数々の成果をあげている。さらに、この成功が適時、全国に発信され、栃木県は「環境先進県」としての地位を確立して、毎年たくさんの見学者が訪れる魅力的な県になっている